

令和5年度「小・中学校ジョイントスクール推進事業」第二中学校区実践計画書

事務局 八戸市立第二中学校(担当:教頭 元澤朋子)

1 主題(3年計画の2年次)

「発達の段階に応じた、基本的な生活習慣及び望ましい学習態度の育成を図る小中連携の在り方」

2 主題設定の理由

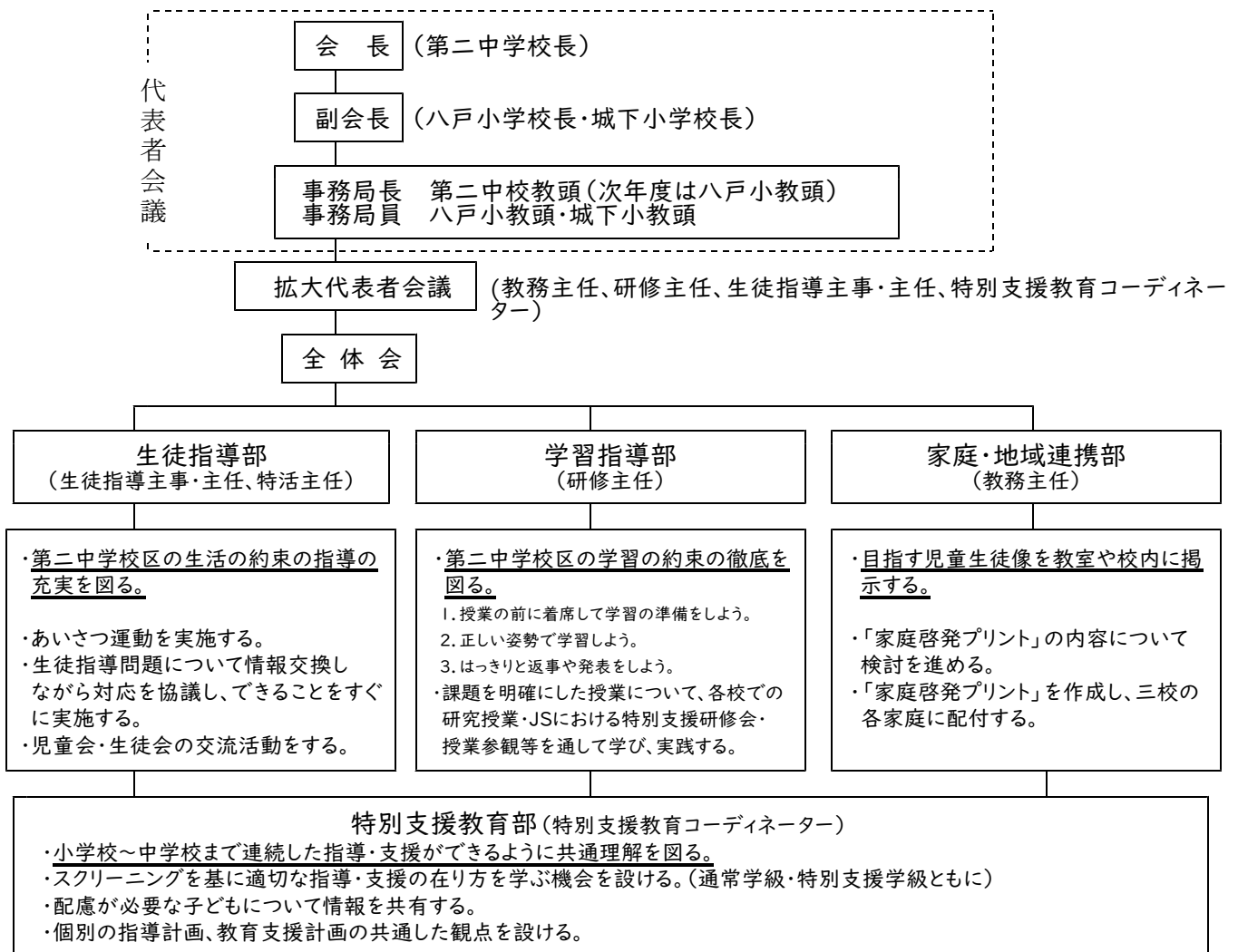
本中学校区では、「発達の段階に応じた、基本的な生活習慣及び望ましい学習態度の育成を図る小中連携の在り方」を研究主題として、児童生徒のよりよい変容に向けて、四つの部会(生徒指導部、学習指導部、家庭・地域連携部、特別支援教育部)を設け、3年計画で研究を進めている。

コロナ禍のため、令和元年度以降3校の教職員がそろって研修することはできなかったが、各校において、部会ごとの共通実践に取り組むことを通して、基本的な生活習慣や望ましい学習態度について向上が見られた。また、これまでの本中学校区の課題であった、児童生徒の学びと成長の連続性を図っていくための小・中学校教員の一貫した指導や、多様な背景・困り感を抱えた児童生徒に対する理解を深めるための研修会を、各校を会場に行った。八戸学院大学短期大学部教授の野口和也氏を講師に招き、スクリーニングの結果をもとにしたご助言や講演会を通して、児童・生徒の特性に応じた指導・支援の在り方について学ぶことができた。一方で、「中1ギャップ」解消に向けた小・中学校の連携を強く意識して取り組んでいくことを継続していく必要性が挙げられた。

そこで、授業においてユニバーサルデザインの視点を取り入れた指導を行っていくこと、3校の児童生徒の共通課題である「自分の意思をはっきりと伝えられること」「話をしっかりと聴けること」について、共通理解を図りながら継続して指導していくことに取り組むこととした。

これらの課題解決に向け、今年度は上記主題を設定して研究を進める。

3 小・中学校ジョイントスクール推進事業を推進するための組織



4 第二中学校区の重点指導項目

第二中学校区一貫指導の重点指導事項

- | | |
|--------|----------------------------------|
| (児童生徒) | ■教師や友達に、自分の意思をはっきりと伝えることができる。 |
| | ■教師や友達の話をはっきりと聴くことができる。 |
| (教職員) | ■授業や様々な場面で、自分の意見をもたせ発表する場面を保障する。 |
| | ■児童生徒の発達の段階に応じた伝え方・内容を工夫する。 |